

“今週の国際宇宙ステーション（ISS）”

最初のISS構成要素打上げから1383日経過しました
第5次長期滞在クルーのISS滞在は88日経過しました

ISS動向

第5次長期滞在クルーは8月の船外活動で使用した宇宙服や道具類の後片づけを行いました。その後、植物成長実験などの科学実験やISS内のシステムの装置交換などの保守作業を行っています。また、船外活動の準備や実施のため中断されていたグローブボックスという実験装置を使った微小重力下でのライフサイエンス実験も9月3日以降再開され、クルーはISSでの科学実験に忙しい日々を送ることになります。



グローブボックスを操作するウィットソン
宇宙飛行士(2002年7月)

これからの予定（米国時間）

- ・ 9月20日 ソユーズロケットによるプログレス無人補給船の打上げ
（打上げ地：バイコヌール宇宙基地、カザフスタン共和国）
- ・ 10月2日以降 スペースシャトル・アトランティス号打上げ(アメリカ)
（ISSへS1トラスの取付け）

スペースシャトル・アトランティス号打上げに向けてシャトルクルーの訓練は順調

10月2日打上げに向けて、スペースシャトル・アトランティス号に搭乗するアシュビー、メルロイ、マグナス、ウルフ、セラーズ、ユリシチンの6名はジョンソン宇宙センターやケネディ宇宙センターでの訓練を続けています。



シャトルクルーの船外活動訓練
開始前の様子

“今週の「きぼう」”

日欧米の宇宙飛行士がヨーロッパで訓練中

日本、ヨーロッパ、アメリカの宇宙飛行士がヨーロッパでISSの訓練をおこなっています。この訓練は今年始めに日本で行われた「きぼう」の訓練同様、ISSの装置に関する知識を習得するもので、今回は欧州宇宙機関（ESA）が開発中のコロンブス実験モジュールや無人補給宇宙船（ATV）に関して行います。

土井・若田・星出・古川各宇宙飛行士と共に、ESAから4名、NASAから2名の宇宙飛行士（計10名）が参加して、8月26日から9月6日までドイツ・ケルンにあるヨーロッパ宇宙飛行士センターで訓練を行っています。



コロンブス実験モジュール完成予想図

“お知らせ”

航空機を使った無重力実験に参加する大学生チームが決定

NASDAは、航空機を利用した無重力実験に参加する大学生などのチームを7月に募集し、24件の応募を頂きました。応募テーマについてNASDA内外の有識者による審査を行い、4件の実験テーマを選定しました。

選定されたお茶の水女子大理学部化学科、奈良県立医科大医学部耳鼻咽喉科、東京大学教養学部理科I類、青山学院大学工学部機械工学科の4チームは今年12月に予定されている航空機実験に向けて、実験装置の製作・実験手順の確認などを行う予定です。実験成果は来年2月の成果報告会で発表していただく予定です。



無重力実験に使用される航空機
(ダイヤモンドエアサービス株式会社提供)

選定された実験テーマに関する詳しい情報は

<http://jem.tksc.nasda.go.jp/education/parabolic/> をご覧ください。

問い合わせ先: 宇宙開発事業団 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター TEL: 0298-68-3074

ISS・きぼうホームページ <http://jem.tksc.nasda.go.jp> Eメール kibokoho@nasda.go.jp

「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。